

こいた 小板まきばの里通信 Vol 11.3

～紅葉した木の葉の色を比べてみよう～

小板まきばの里へようこそ。小板まきばの里は西中国山地国定公園内の南に深入山、北に臥竜山で挟まれた標高750mの山里、小板集落の一角にあります。2018年11月にこの地に移住してきたスタッフ2名が60年以上前に住人がいなくなり荒地と化した耕作放棄地を、この土地の自然の恵みを活用しながら手作りで開拓しています。このキャンプ場ならではの豊かな自然と波乱万丈の開拓現場の探索をお楽しみください。

■キャンプ場周辺で秋の植物を探索しよう！



ズミ



アカシデ



コシアブラ



クロモジ



コハウチワ
カエデ



ヤマウルシ



アラゲ
ナツハゼ



コマユミ



シロヨメナ



サワフタギ
(ルリミノウシゴロシ)



ヨメナ



カンボク



ノブドウ



カラゴギ
カエデ

■里山の自然観察 ～紅葉した木の葉の色を比べてみよう～

10月後半になるとキャンプ場周辺の山はいよいよ紅葉のピークを迎えます。紅葉した葉の色は黄色やオレンジ、赤、紫など、木の種類でそれぞれ違う色になりますが、よく見ると同じ木にもいろいろな色の葉がついています。なぜこのようないろいろな色に変わるのでしょうか？

黄色はニンジンに含まれるβ-カロチンの仲間のカロチノイドという黄色い色素の色です。もともと葉に含まれている色素が、クロロフィルという緑の色素が分解して薄くなる事で黄色くなっていきます。赤は光合成で作られた葉の中の糖から日光と酵素の働きでアントシアニンという赤い色素ができる事で赤くなると考えられています。紫は緑の色素が分解する前に赤い色素ができることで2つの色が混ざった紫色になるのだとか。いろいろな色素のバランスでいろいろな色に変わっていく木の葉の色を比べて見ましょう。